

最強の投資手法「スーパーボリンジャー」「スパンモデル」によるシンプルトレード

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。

分析は、全て、先週末9月16日の日足終値時点(NY時間午後5時)での判断です。尚、内容は、私の有料情報サービス「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)から一部抜粋(毎日お届けしている中で、月曜日の朝一番の配信分のみ)です。毎日の配信をご希望の方は、ぜひ「実践トレードコーチング掲示板」(<https://www.eagle-fly.com/mur/>)をご覧ください。(動画配信を毎日行っております。無料お試し期間もあります。)

<<<主要7通貨相場週足、日足、4時間足、1時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に4時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に1時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に5分足での売買判断となります。

そして、トレード戦略の解説は、YouTubeで配信している「実践トレード解説」をご参考にしてください。

「マーフィーFX」YouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々な相場解説を無料動画で視聴出来ます。

■ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

尚、僅かながらも終値が+2σラインを下回ったことで、上値の重さも示唆される格好。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、

センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σライン~+2σラインにかけてのゾーンは戻り売りチャンスとも読む。

尚、買いシグナルの順行パターンの買いサインは引き続き点灯中。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが相関しながら動くことを指す。

<<1時間足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、遅行スパンが陰転しているため、下落バイアスを伴っていると読む。

また、カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、

- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。
- 尚、目先、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

■ユーロドル

<<週足>>

本格下落トレンド局面。

終値と-1 σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が-1 σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

<<日足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

<<4時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

尚、目先、点灯している売りシグナルについては、判断は中立と読む。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、

- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
 - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
 - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、
等々。
- 尚、買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

■豪ドル/ドル

<<週足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを再度上回ると+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りすると判断する。

<<日足>>

基調としての下落トレンド局面。

遅行スパンが陰転しているかぎり、基調としての下落トレンドと判断。

遅行スパンがローソク足に接近、接触するタイミングは戻り売りチャンスと読む。

尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサインは依然として点灯中。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。
尚、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 σ ラインから+2 σ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 σ ラインから-2 σ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2 σ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 σ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 σ ラインをブレイクすること、等々。

■ポンドドル

<<週足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

<<日足>>

調整反騰局面と緩やかな下落トレンド局面が併存中。

すなわち、終値がセンターラインを上回るまでは、緩やかな下落トレンド局面が続き、終値が-2 σ ラインを下回るまでは、調整反騰局面シナリオが残る。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると+2 σ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。尚、赤色スパン陰転の逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

調整反騰局面。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

センターラインは最初の戻りの目途となるが、遅行スパンが陽転しないかぎり、

センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が -2σ ラインを下回るまでは、 -1σ ライン \sim -2σ ラインにかけてのゾーンは押し目買いチャンスとも読む。

■ユーロ円

<<週足>>

上昇バイアスを伴ったレンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

遅行スパンが陽転しており、上昇バイアスを伴っていると読む。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。調整反落局面入りの兆候はあり。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

買いシグナル、及び、赤色スパン陽転の逆行パターンの売りサイン点灯中。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

<<1時間足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。
カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

ところで、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、等々。

■豪ドル円

<<週足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と+1σラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σライン~+2σラインにかけてのゾーンは戻り売りチャンスとも読む。

また、買いシグナルの順行パターンの買いサインは引き続き点灯中。

<<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。尚、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回っており、+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面となっている。遅行スパンが陽転しないかぎり、+1σラインから+2σラインにかけは、一旦は戻り売りチャンスと読む。

■ポンド円

<<週足>>

レンジ局面。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。遅行スパンの同期性にも注目したい場面。

遅行スパンの同期性とは、遅行スパンの上げ下げのリズムとローソク足の上げ下げのリズムがほぼ一致すること。互いが関連しながら動くことを指す。

<<日足>>

調整反落局面。

終値が+1σラインを下回ったことで、調整反落局面入りしている。

センターラインは最初の押しの目途となるが、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンと読む。

また、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、終値が+2σラインを上回るまでは、+1σライン~+2σラインにかけてのゾーンは戻り売りチャンスとも読む。

<<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と -1σ ラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値が -1σ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

尚、目先、売りシグナルの逆行パターンの買いサイン点灯中。

<<1時間足>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が -1σ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途

であったセンターラインまで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、

終値が -2σ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

★尚、スーパーボリンジャーは、価格的要素を重視し、より短期の判断、
スパンモデルは、時間的要素を重視し、より長期の判断となる。また、
スパンモデルシグナルは、より短期の判断、赤色スパンは、より長期
の判断となる。

以上です。

◆「マーフィーFX」YouTube チャンネル登録のご案内。

<https://www.youtube.com/channel/UCTOj289ZKb3JgFqj5RefBcg>

様々なマーフィー流相場分析、解説が動画で無料視聴出来ます。

◆マーフィー流 FX「実践トレードコーチング専用」ライン@のご案内。

以下より登録できます。

<https://www.span-model.com/line/>

◆「スパンオートトレーダー(SAT)」のご案内。

「スパンオートトレーダー(SAT)」とは、「裁量トレード」と「自動売買(EA)」

の良いとこ取りをした、とても便利なトレードツールです。

「スパンオートトレーダー」の詳細、及び、お申込みページはこちらです。

<https://www.xfine.info/satrader/>

◆「スパンオートシグナル」のご案内。

スパンモデルを有効に使いこなす為のきわめて強力なツールです。

スパンオートシグナルのご紹介、および、ご購入用ページはこちらです。

<https://www.xfine.info/sauto/>

以上です。